

## 第11回「ハンガリー旅の思い出」2014年コンテスト作品

川本晴夫さんの作品

### ハンガリー旅の思い出

文字も知らない、言葉もわからい外国の街に行けば、すべてがミステリアスだ。  
ハンガリーの古都ペーチ市で2014年7月8日から12日にかけて世界学生レスリング選手権が行われ、早稲田大学レスリング部のOB会の広報紙の取材で選手団に同行させてもらった。  
地元のレスリング協会は試合前に、「トロッコ観光列車」(タイヤ式、3両編成)で、古都を案内してくれた。  
石畳の街路を縫うように「列車」は走り、中世のたたずまいを残す教会や砦跡、住居に乗客は大喜びだ。



中心街のセーチェニ広場では巨大な馬の像が目飛び込んできた。大勢の観光客が囲んでいて。ガイドブックを見たけれど、その巨大「像」がなんであるか1行も載っていない。  
日にちを改めて確認の散歩に出掛けたところ、像の台座にアルファベットもどき文字で何やら書いてあったが、読めない。



近くに「POLICE」の文字を記した小さな建物。日本なら、どう見たって交番だ。のぞいたら、建物の中に美男、美女の若者2人がいた。なにをおっしゃっているのか分からない。観光案内所のようなだった。笑ってごまかしたのに、2人は外の出でくれ、ニッコリ笑って写真のモデルになってくれた。



しばらく歩いて行ったら、鍵がつながり、塊になって柵を覆っていた その鍵をバックに子ども2人を、パパがシャッターを押していた。「なんのまじないだろうか」。ここでも親子をモデルに写真を撮らせてもらい、首をかしげて立ち去った。

古都の裏通りのあちこちの建物の壁やへいにズラリと得体のしれない文字、記号が書かれていた。



政治スローガンや道案内、店の看板とは思えない。「落書き」と考えるのが素直のようだった。なんて書いてあるのか。落書は落書か。でも、リズム感を覚えたのは、音楽を愛するお国柄のせいかな。

帰国してすぐに、ハンガリー政府観光局にこれら謎をぶつけてみた。

馬の巨像は、レオナルド・ダ・ビンチ展のPRのためにダ・ビンチの作品を復元したものだという。となると展示会が終わると取り壊すのか。期間限定なら貴重な写真となる。鍵は縁結びの「幸福の鍵」とわかった。パパは2人の将来に願をかけ、ファインダーをのぞいていたのだ。

謎が氷塊し、胸のつかえが取れたとたん、ペーチの街が懐かしくこみあげてきた。